

市長 西岡 真一郎 様

2021年度予算への要望書

私たち小金井生活クラブ運動グループ地域協議会は、小金井市内で活動する7団体で構成されています。地域協議会として、ともに大気汚染調査や野川の川辺環境調査、一言提案など、まちづくりを市民自治で行うためにさまざまな活動を続けています。

今年も市民の声を市政に活かすため、「一言提案」というアンケート調査を実施し、市民の方々から日頃、生活の中で感じていることを寄せていただきました。

多くの市民が「まちづくり」に関心を持ち、安心して子どもを産み、育てることができ、高齢になっても住み慣れた地域で暮らし続けたいと願っています。

市民の方から寄せられた「一言」のなかにこそ、身近な暮らしの切実な課題があります。私たちはこのアンケート調査を基に、予算要望書という形で小金井市に提案いたします。

市長をはじめ、各担当課の方々には、市民の声を、出来るだけ来年度の予算に反映していただけますように、お願い申し上げます。

私たち生活クラブ運動グループ地域協議会も、小金井市と力をあわせ、今後もより良いまちづくりにむけて活動していく所存です。

2020年10月8日

小金井生活クラブ運動グループ地域協議会

【所属団体】

生活クラブ生協 まち・小金井

NPO 法人 はあとぽっと

NPO 法人 ほっとわあく

小金井・生活者ネットワーク

環境まちづくり NPO エコメッセ小金井

まちの縁がわ わ・おん

かなエル・ハウス

2021年度の予算に対する要望書

今年度の市民からの一言提案から、予算要望とその他の意見をまとめました。市長及び各課におかれましては、暮らしの中の声を受け止めていただき、市政への反映をご検討願います。

市政の更なる発展には、市民・若者・子どもの参加や参画、市民協働の推進が欠かせません。その観点からも、まちづくりへ市民の声が活かされた、と市民が実感できる機会は重要です。これからますます小金井市が、子育て世代から選ばれるまちであるためにも、私たちの提案が活かされるよう強く期待いたします。

■子ども、若者

1. 5感を使い、体験を重視した学校教育の充実を（環境、人権、主権者、性教育）

- ・ ICT教育の推進と共に、遊びや芸術、体育など5感を働かせる時間を十分に子どもたちに確保するよう求めます。
- ・ ギガスクール構想が始まるが、電磁波による子どもの健康への影響については予防原則に立ち、少なくとも以下の対応など、ガイドラインを作って進めてください。
 - ※Wi-Fiのアクセスポイントからの子どもの位置は、少しでも距離を長く取ってください。
 - ※Wi-Fi通信を使用しない時間は、アクセスポイントのスイッチを切ってください。
 - ※子どもたちの視力や姿勢の変化、健康状態の変化などに着目して、子どもたちへの適切な指導と共にその記録を取り、国へも報告することを求めます。
- ・ 道徳教育の根本を教員が更に学習・研究し、授業の充実を求めます。また、憲法についてもきちんと学習する機会を作ってください。
- ・ 日の丸、君が代を強制するような卒業式や入学式を止めて、教師や生徒、保護者の意見を最大限に尊重することを求めます。
- ・ 市内の農業者との連携による食育、農業体験など、地域の方々とのふれあいや実体験を重視した授業を増やしてください。（なるべく農薬を使わない農業や地産地消、コロナによって浮かび上がった自給率の問題、種子法などの学習を行って欲しい。）
- ・ 地下水の豊富な小金井の水道水を、安全でおいしい水の仕組みと共に子どもたちが学べる授業を行って下さい。
- ・ 化学物質による健康被害が増えています。アレルギーや化学物質についての学習を授業に取り入れてください。
- ・ 子どもの発達に応じた、命と人権の視点での性教育を行って下さい。また中学生の家庭科などで、子育て中の親子とのふれあいや、ベビーシッター体験授業を取り入れて下さい。
- ・ 市の奨学金は他の奨学金との併用ができるものとし、国に対しても奨学金は給付型にすることを求めてください。
- ・ 学校給食の無償化を求めます。
- ・ 小金井の給食指針を守り、経験が引き継がれるように、直営の調理体制の維持を求めます。

- ・また調理業務の民営化によって生み出された財源は、給食業務の環境整備や磁器食器導入など、その充実に優先的に充ててください。
- ・スクールソーシャルワーカーだけでなく、発達支援や問題といわれる行動を起こしてしまう子どもたちへの支援として各小学校に作業療法士の配置を求めます。※資料参照。
- ・教員の労働環境の観点からも、東京都には正規職員を増やすように強く求めてください。

2. 子育て・子育て環境の充実を

- ・子どもの野外での自由な遊び場が地域に必要です。市内の各地域にある公園や緑地などで、定期的な出張プレーパークの実施を求めます。
- ・気軽にいつでも集える乳幼児の親子広場を身近な地域に増やすために、市が行っている「親子ひろば事業」と民間の「親子広場」の連絡会などを市が主導して作ってください。
- ・保育士の処遇については、近隣市との比較で他市に流出することが無いよう充実させてください。
- ・野外での幼児教育の場として「森の幼稚園」も含め、すべての家庭を幼児教育無償化の対象として下さい。国や東京都へも、市長から要望書を提出してください。
- ・市内に多く発生している空き家・空き店舗の利活用を進めて、待機児童の預かりも含め、家庭的保育の良さが活かせる保育事業の推進を求めます。
- ・子育て中の短時間就労や就活、介護、レスパイトなどのニーズに対し、一時保育を利用しやすい環境整備を求めます。
- ・市民協働による図書館での託児サービス（短時間）の開始を求めます。
- ・手押しポンプ井戸のある防災公園など、親子で水遊びができる公園を北西部にも整備してください。
- ・市内の幼稚園との連携を充実させるために、園長会だけでなく、保護者との連絡会なども設置してください。
- ・安全な抱っこ・おんぶの教室を、産前産後の様々な機会で開催してください。

3. 子ども・若者のまちづくりへの参画を進める

- ・学校以外で安心して遊べる場所・ボール遊びができる公園が必要です。子どもにとって遊び場として魅力のある公園づくりを、子どもも含む市民参加によるワークショップなど実施したうえで、住民参加型で行ってください。
- ・中高生の自主的な活動を支援する青少年プラザ、中高生児童館など若者の施設整備を、計画段階から中高生と共に進めてください。（先進事例：文京区、豊島区、世田谷区など）
- ・保健センターの移転後の施設活用については、おやこ遊びひろばなど乳幼児親子の居場所機能は残し、中高生と乳幼児親子、地域の大学生や高齢者とも交流できる多世代交流館とするなど、地域性を生かした施設として活用してください。
- ・不登校の子ども freespace・居場所の整備は、学習だけでなく子どもが自分の居場所・たまり場として選べる視点を持ち、子ども参加を進めてください。
- ・子どもがまちづくりを主体的に体験する「子どものまちミニ・こがねい」の取り組みを、子どもの参画事業として位置づけ、市民協働事業で実施することを求めます。
- ・子どもの参画事業を推進するために、子ども提案事業を創設し予算化を求めます。

■地域福祉

1. 高齢者・障がい者福祉制度のさらなる充実を求めます

- ・慢性的人材不足の解消のために、ヘルパー養成講座の継続をしてください。
- ・家族介護者の緊急時などにスムーズに対応できるショートステイを確保してください。
- ・車いすのまま乗れる介護タクシーが増えるよう、市の助成などを検討してください。
- ・医療と福祉の連携システムの構築をすすめてください。
 - *かかりつけ医制度の構築。
 - *最後まで自宅で暮らし続けることを支える在宅医療のしくみづくり。
- ・ケアラー（家族介護者）の実態把握を行い、ニーズに寄り添った支援を行って下さい。
- ・成年後見制度の推進のために、市民後見の促進（人材養成と活動支援）や任意後見制度の啓発を行ってください。
- ・健康長寿を維持するためにも、介護が必要になる前からの配食サービスを導入してください。高齢者のみや高齢独居世帯には、所得制限付でも導入することを求めます

2. 様々な視点での「居場所づくり」を市民協働の視点で推進してください

- ・市民が担う様々な居場所活動は、高齢者や障がい者等の自立支援や社会参加、また多世代交流の機会を増やす、また、暮らし全般の身近な相談場所にもなっています。社会的課題の解決のためにも、福祉部だけでなく、庁内連携をもって取り組むことを求めます。
- ・空き家の利活用について積極的情報提供や、家賃補助などの支援を求めます。
- ・公共施設での障がい者雇用カフェについては地域や市民との連携を広げ、開催曜日や時間の拡大を図ってください。

3. 住まいの確保に困難な人々への支援のしくみ「居住支援協議会」の設置を求めます。

4. 相談窓口の統一化

- ・福祉総合相談窓口は、相談から解決まで導く伴走型の支援を求めます。

■働き方

- ・ベーシックインカムの推進は、まずは市役所から進めてください。
- ・障がい者就労支援センター【エンジョイワーク・こころ】の更なる充実のために、人員増を図ってください。

■環境

1. 水と緑

- ・多くの地下水を水道水源としているので、水質の保全を求めます。
- ・野川が涸れることのないように雨の浸透をさらに進め、地下水・湧水の保全を求めます。
- ・小金井市には地下水と湧水を保全する条例があります。湧水を保全するために、特に涵養域にあたる地区などの計画が浮上した際は、計画段階での早い時期に地下水保全会議に諮

り、湧水に与える影響をできるだけ少なくしてください。

- ・市民の命と暮らしを守る水道事業の民営化を進めないよう、東京都に明確に意思表示してください。
- ・小金井の水道水の地下水割合を減らさないよう求めます。東京都に対して、毎年の地下水含有率を確認し市民へ公表してください。
- ・自給率のアップをめざすために、農地を積極的に活用し、地産地消を進めてください。そのために、学校給食に地場野菜をさらに積極的に使うことを求めます。
- ・市の南北、野川と玉川上水の緑をつなぐ樹木の配置で緑の回廊を造り、生物多様性や生態系を保全してください。
- ・玉川上水の生物多様性を守るために、桜以外の樹木の皆伐はやめてください。
- ・小金井市も「環境宣言都市」を宣言して、市民への啓発を積極的に進めてください。

2. 3 R、ごみ

▼プラごみを減らすために

- ・プラスチックの海洋汚染が深刻になっている今こそ、小金井市を挙げてのプラごみゼロ宣言を行うよう求めます。
- ・プラスチックごみ（ペットボトル含む）は、まず、消費者が購入しないよう努めることと、生産者責任でリサイクルを行い、更なる発生抑制につなげていくことが大切。リサイクル協力店の拡大と、市民への行政指導もより強化徹底してください。
- ・現在プラスチックごみと燃やさないごみは同じ色の有料袋となっていて、混合しやすい状況です。「資源」としての意識を高め、排出する努力が報われるように、「容器包装プラ」を無料袋で回収するシステムを、新規追加で導入してください。
- ・プラスチック容器やトレーを自主回収する店舗を増やし、お返し大作戦を進めてください。
- ・ペットボトル削減、熱中症予防のために、図書館公民館などの公共施設に、マイボトルの給水ポイントを設置してください。
- ・ボトル給水器も必要です。東京都などに働きかけて、駅頭や大型店舗、市民交流センターなどに設置して下さい。

▼リサイクル事業所の機能継続について

- ・小金井市の粗大ごみは、近隣自治体に比較し、その排出量が多いことが判明しています。リユース促進からもリサイクル事業所は必要な施設です。小金井市に新たなリサイクル事業所設置を市民参加で進めてください。

▼転入者や単身者集合住宅の対策

- ・転入者が転入届を出した際に立ち寄れるように、ごみの説明コーナーを設けてください。
- ・市の生ごみ処理機への補助金は、8割補助の見直しを求めます。

3. 化学物質（合成洗剤、香害、除草剤）

- ・「香害」はマナーだけでなく健康問題だとわかるように、ポスターなどで市民へ知らせてください。また、市内の店舗や事業者にもポスターの掲示をお願いしてください。
- ・市の職員や議員への勉強会・研修のテーマに、化学物質の健康への影響についても取り入れてください。

- ・「小金井市学校給食の指針」には、「洗剤は石けんを使用」することが盛り込まれています。調理業務の委託化が進められていることから、委託業者に対しても石けんの使用を徹底することを求めます。
- ・学校など公共施設での石けん使用を徹底するために「石けん使用指針」の策定を求めます。また同時に、グリーン購入の項目に「石けんの使用」を含めることを求めます。
- ・農薬や除草剤散布による被害は人間の健康に止まらず、犬や猫などの小動物にも及んでいます。除草剤を散布しないように、市報で呼びかけるとともに、駐車場などを管理している管理会社にも指導を徹底してください。
- ・小金井産の野菜を販売する際、農薬回数の表示を行うよう農協や農家に協力を求めてください。協力者には「エコファーム」として認定し、市報等で推奨してください。
- ・害虫駆除等の事業者選定にあたっては、薬剤に頼らずにバイオの力などで害虫駆除等に取り組む事業者を選定するように求めます。

4. エネルギー関係

- ・「小金井市エネルギービジョン」の策定を求めます。
- ・災害時には自前でエネルギーが確保出来る場所を増やすために、高齢者や障がい者などが避難する福祉避難所などで、太陽光発電や蓄電池の設置を進めるための支援を行ってください。
- ・災害時も近隣住民がスマホの充電など最低限の電気が使えるように、すべての公共施設に小規模な太陽光パネルを設置することを求めます。
- ・屋根だけでなく、ベランダでも設置できる小型の太陽光発電パネルなどへの市の補助制度を求めます。
- ・夏の節電対策を市役所が率先して実施してください。市民が実践している節電アイディアも市報等で募集し、紹介してください。
- ・環境家計簿の作成を進めるとともに、「こがねい版環境行動指針」を市民参加で作ることを求めます。

■まちづくり

1. 都市整備

- ・野川を分断する都市計画道路は、反対です。市としても東京都に明確に示してください。
- ・市内の歩道の実態調査を行い、誰もが安心して通れる整備を求めます。
特に、連雀通りの歩道の急勾配や第四小学校付近の細い片側にしかない歩道などは、都へ整備をするよう要望してください。
- ・公共交通の不便地域には、住民が参加してルートや料金などを決める住民懇談会を立ち上げて、コミュニティタクシーなどの導入を検討してください。

2. 災害に強いまちづくり

- ・震災時は水の確保が必要です。震災井戸を浴恩館公園などの公園をはじめ、すべての公共施設に設置してください。また、今ある震災対策用井戸が本当に災害時も使用できるかどうかを調査し、電気が止まっても使えるような整備が必要です。自家用発電機や手押しポ

ンプなどの助成金の設置も求めます。

- ・梶野公園のように、いつでも住民が使える手押しポンプ式井戸を他の公園にも設置することを求めます。また、梶野公園のかまどベンチは1台では足りません。まずは梶野公園のかまどベンチの増設と、各公園をはじめ避難場所にもかまどベンチの設置を求めます。
- ・各家庭の雨水貯留槽設置の助成制度の更なる啓発を進め、増やすことを求めます。

3. 図書館・公民館

- ・充実した図書館にするために、閲覧スペースを広くする、人気のある本を増やすなど市民にとって使いやすい図書館の実現を求めます。
- ・図書館本館のコピー機は、夜間は使えません。対応できる職員を増やすなど、予算措置も含め対応を求めます。
- ・公民館運営審議会での答申を生かし、新庁舎・新福祉会館では公民館としての活動を保障してください。
- ・図書館・公民館の職員は、社会教育の専門性を持ち市民・地域とのコーディネート力を発揮できるように育成してください。

■市民協働条例の策定を求めます

- ・市民協働事業の円滑な推進のためには、条例化と協働契約の創設を求めます。

■「人権と平和」の憲法を守り、憲法順守の施策を進めてください。

- ・学校教育では、戦争体験を語り継ぐ授業や広島・長崎への修学旅行など、平和教育の一層の充実を求めます。
- ・市民掲示板の利用は人権に配慮し、選挙や宗教の宣伝以外は、今後も市民が自由な利用を保障するよう求めます。

■その他の意見

子どもの育ち・学校関係

- ・地域の大きなイベント・お祭り開催時に、日曜祝日の学校体育館などを地域にも使わせてしてください。
- ・子連れでストレスなくバスに乗りたい（心ない言葉をココバスでかけられる事が何度かあった）
- ・保育所はもっと外遊びをさせるべき
- ・心と体に負担が多い運動会の組み体操をやめてほしい、連帯や団結はダンスなどで取り組みを
- ・自転車走行のルールについて、正しいルールを知らない人（子ども～大人まで）が多く危険を感じる事が良くある。小学生には学校できちんと教える時間を取ってほしい。市民全体に向けても基本的なルールを何らかの方法で周知してほしい。

環境関係

- ・市からの転出時には多量の粗大ごみが発生するが、リユースのシステムを検討してほしい。また、家具付きの部屋貸制度を不動産事業者と連携して導入できないのか。（経済課にあるほしいものの交換だけでは、粗大ごみは減らない）。
- ・「ごみ分別の手引書」を改訂したら全世帯に配付してください。今後ごみゼロ化推進会議と連携してカレンダーづくりに市民の声を生かしてください。また、粗大ごみの手数料やシールを販売している店舗などを明記した「粗大ごみ料金表」も「手引書」に挟み込んで、ごみカレンダーと一緒に市民に配付してください。大学とも連携し、掲示板に近隣自治体の分別方法を掲示する、大学の窓口でごみカレンダーを配布、ごみアプリを紹介するなどの協力を求めてください。
- ・「小金井市学校給食の指針」中の「洗剤」という表記は「合成洗剤」を想起させるため、「洗剤」という表記を削除し、当該文を「石けんまたは洗剤を使用」という表記のみとすることを求めます。
- ・公共施設のエアコンの温度設定を厳しくチェックしてください。適温が守られていない。
- ・フードマイレージの高い食品にどれくらい石油などのエネルギーが使われ二酸化炭素を排出しているかわかりやすく啓蒙してください。
- ・学校・保育園給食の食材の放射能測定については、今後も継続することを求めます。また、市民申し込みの食品を測る放射能測定室も、更に継続することを求めます。
- ・国産の「種」を守り、遺伝子組み換え表示を守るよう、国に働きかけてほしい。
- ・CO₂を削減して温暖化を止めるためにも、電気自動車の充電スタンドを増設・普及させて下さい。

まちづくりなど

- ・まちの在り方や景観などを住民が決められることを周知し、まちづくり条例にある地区計画づくりを進め、小金井市が独自に指導監督できるようにしてください。
- ・高齢者等が外出した時など、安全に散歩ができる道と、道路やバス停など所々に腰を下ろせるベンチを設置することを求めます。
- ・婦人会館やマロンホール、上水会館などの集会施設もネット予約が出来るようにしてほしい。
- ・市内の採農ボランティアや、事業者・商店のアルバイトなど、気楽にネットで応募できる仕組みが作れないか。
- ・地場野菜を活用するよう、商店街との連携を強めてほしい。
- ・農福連携を進めて、畑カフェなど農地や緑地の活用に広げてほしい。
- ・食の安全に特化したお店、またはコーナーを備える飲食店を支援し、市内に普及させてほしい。

以上。